

# 世田谷・九条の会

世田谷・九条の会

ニュース No.69

2023年5月29日発行

(題字 西山簡石)

●事務局 〒154-0017 世田谷区世田谷 1-11-16 世田谷民商気付

Tel: 03-6754-8666 Mail: [setagaya9jyou@gmail.com](mailto:setagaya9jyou@gmail.com)

●ホームページ <https://setagaya9jyou.jimdofree.com/>

●郵便振替口座 記番号 00110-5-260741 世田谷・九条の会

## 不戦の誓いを堅持しよう

中村重美

総務省は、4月21日、2022年度平均の全国消費者物価指数が前年度比3.0%上昇したことを発表しました。41年ぶりの高い伸びです。今、政府に求められているのは、コロナ禍と物価高騰に苦しむ国民のいのちと暮らしを守ることではないでしょうか。

ところが、岸田政権は、昨年12月16日に「国家安全保障戦略」、「国家防衛戦略」、「防衛力整備計画」で構成するいわゆる「安保3文書」の閣議決定により、「安全保障政策の転換」と称して、5年間で43兆円もの大軍拡とその財源を賄うための大増税の動きを加速しています。区内三宿にある駐屯地を含め、全国の自衛隊基地の地下化やシェルター化の動きも進んでいます。本土が戦場となることを想定したものといえます。しかし、地域の住民の安全確保に関する具体的な措置について地元自治体への十分な情報提供や説明はありません。「日本の選択」と題した表紙に岸田首相の顔写真を掲げたアメリカの「タイム」誌は、「平和主義を放棄し、自国を真の軍事大国にしたいと望んでいる」と報じました。

憲法9条を持つ日本に求められているのは、アメリカと共に戦争を呼び込むかのような世界第3位の軍事大国になることではなく、「敵基地攻撃能力の保有」と称して攻撃的兵器をアメリカから爆買いすることでもなく、何より、緊張と対立を煽るのではなく対話と外交によって平和を築いていくことではないでしょうか。九条の会の呼びかけ人でもあった作家の大江健三郎さんは、1994年12月7日のノーベル文学賞受賞スピーチで「不戦の誓いを外すことは、アジア、広島、長崎の犠牲者を裏切ることになる」と述べました。「新たな戦前」の叢雲が社会を覆うとしている今、「戦争する国づくりは反対」の意思をはっきりと表明し、連帯の力で「平和の準備」をして、次の世代に戦争や飢えに怯えることのない社会を引き継いでいきましょう。

(世田谷地区労議長)

## 初めに

2022年2月24日、この日の朝、ウクライナ国境沿いに集結していたロシア軍が一斉に国境を侵し、未だ終結しないロシア・ウクライナ戦争が始まった。主権国家が主権国家に対して（ロシア政府は頑なに『特別軍事作戦』と主張しているにせよ）侵略戦争を仕掛けたという事実に、僕は少なからず衝撃を受けた。あまりに日和見主義だったと猛省しているが、太平洋戦争以降、国家が国家に対して武力でもってこれを侵攻するということに対して、この国際社会で何の益があるのか、だからこそ起こり得ないと考えていたからだ。

しかし実際に侵攻は開始され、2023年5月現在、ウクライナ市民だけで4万人以上の死傷者が出ている。そして兵士たちや市民たちはSNS を用いて、戦場のその様を僕らに発信してくれている。戦争が起こればどんな目に遭い、何が我々に降りかかるのかを伝えてくれている。それは78年前、我々市民の身に確かに降り注いだ災禍でもある。

私事ではあるけれど、僕は10年ほど前より、戦争体験者の方々に直接その戦争体験を伺い、映像に残し、かつ、デジタル上に保管して公開する『デジタルアーカイブ』という仕事に携わっている。その中で確かに見聞きした当事者の体験を如何に残し、後世に繋いでいくのかというのは生涯のテーマであり、僕1人では成し得ない途方もない道程でもある。僕らが暮らす、この東京世田谷には91万人を超える人々が住まい、戦中・戦前にお生まれになった方々だけでもおよそ8万人（注1）がおられる。彼ら彼女らの戦争体験は疑いようもなく貴重で、僕らが戦争を見つめる際の助けになるはずではあるが、そのほとんどが体系的にまとめられ、誰もが閲覧できる資料として完成していない。

隣近所に住まう誰かが78年前に体験した戦争を、どのように見つめ、なぜ残し、誰に繋ぐのか。僕が実際にインタビューをした、太平洋戦争の開始から本土空襲の始まり、世田谷や東京が標的となった1945年の東京大空襲・山手空襲の戦争体験者の証言を紹介しながら考えたい。

注1：世田谷区全域の年齢別人口2023/03月（世田谷区HP）より

## 本土初空襲

1941年12月、日本軍の空母機動部隊が突如としてアメリカ合衆国ハワイ真珠湾を攻撃、イギリス領マレー半島に上陸し、太平洋戦争が始まった。

翌1942年6月のミッドウェー海戦で日本軍の空母機動部隊は壊滅し、以降南方の島々では玉砕が始まる。その直前。1942年4月、日本本土初空襲である“ドーリットル空襲”が起こる。東京・横浜・横須賀・栃木・名古屋・神戸などを標的としたこの空襲では民間人含む87名が亡くなった。その中には旧制早稲田中学校に通う生徒もいる。荒川区尾久で被災した田村正彦さん（当時6歳）は、土曜日の授業が終わり、昼過ぎに自宅に戻ってきた際、空襲に遭った。

『4月18日土曜日で、半ドンでしたからうちに帰ってきてドアを開けて「ただいま」といって、台所へ水を飲みについて蛇口をひねった瞬間に猛烈な音がして、家の中で3～4メートル吹っ飛ばされた。母親がたまたま病気で寝ておりましたね、奥でね。「空襲だ」といって叫んで台所へ飛んできたんですね。空襲をまだ経験したことがない人が「空襲だ」と言ったんですからやはり異様な雰囲気と言いますか』

この空襲では、田村さんの隣家の家族7人が直撃弾で死亡している。  
下記写真はその隣家の被災直後の写真である。



『救急車なんかありませんからトタン板に乗ってそれで近くの医院に運んで行ったと。そこでは手におえなくてさらに別の病院に運ばれた。それで亡くなった』

初めて見聞き、体験する空襲に遭っても、田村さんは恐怖を感じなかったと語った。

『怖かったらイライラハラハラして生きることになりますから、「出てこいニミッツ、マッカーサー、出てくりゃ地獄へ逆落とし」と教わりましたから怖くないということで、それが軍国少年の心構えなんですね』

このドーリットル空襲は、以降行われるクラスター型のM69焼夷弾を主にした空襲ではなく、500ポンド爆弾と、ひとまとめで投下されるM17集束焼夷弾によるものだった。街が灰じんと化する空襲を、市民は未だ体験はしていない。

## 日本の都市を焼き尽くす

1944年7月にマリアナ諸島が連合軍により陥落し、その後、大規模な航空基地が建設された。それ以前は中国の成都から飛び立つしかなく、燃料の制約上、九州北部までしか狙えなかった（1944年6月の八幡空襲、沖縄を標的にした10月の十・十空襲など）が、マリアナからは超・空の要塞と呼ばれたB-29爆撃機が、燃料の制約なく日本本土のほぼ全域を攻撃圏内に置いた。そして翌1945年の年初には、アメリカ陸軍航空軍司令官にカーチス・ルメイ少将が就き、日本本土空襲の指揮を執った。彼は後に“皆殺しのルメイ”の異名を持つこととなる。

1945年3月より、日本全土を標的にした焼夷弾による無差別爆撃が始まる。以降終戦の日である8月15日未明まで、石川県を除く全土で空襲・艦砲射撃は繰り返される（注2）。

世田谷区経堂に住む宮本喜代子さん（当時14歳）は、戦中、熊本市内の自宅に家族5人で暮らしていた。1945年7月1日未明の熊本大空襲の際は、自宅の庭に設けた防空壕に避難していたという。

『うちはもう、すごい立派な、屋根が付いていて瓦も葺いてあってっていう防空壕でね。その中に母と弟と入っていたの。兄と父は母屋の屋根に登ってね。落ちてくる焼夷弾を箒で払っていた。焼夷弾って束になって落ちてきて、上空で散らばるのよ。それがあたり一面屋根に当たる音で、「カラコロカラコロ」って鳴るの。それはよく覚えてる』

九州地方では、特に鹿児島県は離島含め県全域が攻撃目標となった。その理由として挙げられるのが、1945年4月に始まった沖縄戦が関係している。元々は補給基地であった県内各地の航空基地は、沖縄戦が始まると共に特攻兵が飛び立つ最前線となり、米軍は県全域を攻撃目標と

した。

世田谷区船橋に住む春成幸男さん（当時19歳）は、東京高等師範学校（現在の筑波大学）2年生の頃に志願、陸軍予備士官学校へ入学することとなる。しかし入営前に故郷の鹿児島への帰郷を許され、6月、鹿児島市内の両親の家へ戻る。両親の家には兄妹と両親、7人が暮らしていた。家族との別れの夜を過ごした6月17日の23時過ぎ。鹿児島大空襲に遭う。

『僕は東京で何度も空襲に遭っていたから、警戒警報程度じゃ寝入って起きもしなかった。ところが母親が「今晚の空襲はちょっとひどいみたいよ…」と起こしにきた時にも「大丈夫だから」と横着を構えてぐずぐず起きなかった。2回目に起こされたその時、家の中に煙が入ってきた。これは大変だ、と僕も飛び起きた。表の通りには40人は入れる頑丈な防空壕があったから、そこへ家族8人で逃げ込むことになった』

春成さん一家が表に出ると辺りは火の粉と煙で充ちていた。市内の目抜き通りからすぐの防空壕へどうにか辿り着き、そこへ避難しようという時だった。

『商売をしていた父親がね、「玄関に大事な書類の入ったトランクを置き忘れてきてしまった」と言うものだから、じゃあ取ってくるよ、僕1人で引き返そうとした。母親が「危ないからもう行かなくていい、ここにいなさい」と言ったんだろうけども、でも、僕は取りに帰った。玄関に入った瞬間、ひっくり返るような物音がして火柱がバーンッと走った。到底トランクなんか見つけられなくて引き返したんですな。ところが帰ってきたら、入った時と違って防空壕の中、人で黒山なんですね。入り口も人が群がってる。そして外にいる人から火が付いていく。着物が焼けたら半狂乱になって走り出すわけだ。走り出しては途中でバタッと倒れて、そこで焼け死ぬわけなんだけれども。「とうとうここで僕も死ぬのかな」と思った時、向こうの通りを馬が走って行ったんです。そこで、咄嗟にそちらへ向かって駆けた。どうにか照国神社という大きな神社の境内にたどり着いて、そこで夜を明かしました。もういっぺん防空壕へ戻るなんて不可能で、ただ、呆然と立ち尽くしていましたよ』

夜が明けて、春成さんは防空壕へ引き返した。鹿児島の街は鉄筋以外の建物はほぼ焼け果て、煙の燻る中、防空壕へ辿り着く。消防団の手伝いもあって防空壕の鉄扉をどうにか開けた。

『防空壕、それこそ押し押せで、本当に隙間の無いくらい。あとで数えると40人くらいの人

がビシッと立ったまま死んでいた。その時は死んでいるとは思わないですよ。立ったままいるわけだから。早く引き出せば助かるはずだということで、急いで中の人を引き出した。僕の家族は壕の真ん中あたりにいましたから、僕の家族も引きずり出して。40人全員を道路に並べて、見た時には、みんな生きてままの状態ですよ。真っ先にお袋に飛びついて揺すったりしましたけどね、結局答えは返ってこなかった。40人の中で、お袋だけが胸の前で手を合わせていた』

この空襲で春成さんは自分以外の家族を亡くし、そして1人で火葬場へ運んだ。家族全員の遺骨が手元に帰ってきたのは、およそ10日後だった。



この写真は、家族を亡くした壕のあったその場所に建つ慰霊碑に、手を合わせる春成さんご本人である。

注2：石川県では空襲はなかったにせよ、能登半島志賀町に於いては米軍の潜水艦による湾内への魚雷発射で30名の犠牲者が出ている他、戦後も敷設した機雷によって漁船が沈没するなど、戦災はあった。

## 東京の空襲

東京は終戦までに100回余りの空襲を受けたが、中でも1945年3月の東京大空襲と、5月25日-26日の山手空襲は特に大規模だった。

昨年亡くなられた作家の早乙女勝元さんは、3月10日未明の東京大空襲の中を、家族5人で逃げ惑った。

『すごい寒い朝だったんですよ。隅田川の水面ですけどね、焼死体と水死体ですよ、溺死体

が流れているんですよね。それを見て、親父がこう言うんですよ。「勝元、見ておけ。忘れぬように見ておけ。これが戦争の姿だ」』

3月の大空襲での目標は主に東京下町であったが、山手空襲は加えて都内西部、世田谷も標的になった。この空襲では3月の大空襲で被害を免れた国会議事堂や皇居、東京駅も被災している。当時、帝国生命保険の熊本支社に勤めていた赤木満智子さん（当時18歳）は、東京本社に出張で訪れた。宿泊先は東京駅横の本社オフィスだった。本社に到着した5月25日の晩、山手空襲に遭う。

『オフィスの窓から火が見えるだけ。そして東京駅が燃えている。ああ、帰りはどうなるだろうかなんて思いましたっけ。屋上に避難しようとするんだけど、ガラスには網が張ってあって出られなかった。そしたら、男の方ですよ、当時は鉄のヘルメット被っていたんで、あれでもってカンカンカンカン叩いて窓を破ったんですよね。屋上には出られたけど、もう火の粉と煙とで大変。屋上の床を這って、どうにか貯水槽のある小屋に入って、そこで夜を明かしました』

## 戦争と孤児 何が起き、どう生きたか

東京大空襲での被災者はおよそ310万人と言われ、損害家屋は85万戸に上る。そして当然のことながら、そこには両親や家族を失った戦災孤児がいる。

『毎日のように誰かしら亡くなっていました。みんな栄養失調ですよ』

2019年に取材した鈴木賀子さん（当時7歳）は、空襲で母と姉を亡くし、弟と2人で上野駅の地下道で雨露をしのいだ。餓死者が続出した地下道では、鈴木さんも弟と共に飢えに苦しむ。孤児の仲間から教わり、駅近くのヤミ市で物を盗み、口に入れて逃げた。

『でもねえ、必ず捕まるんですよね。ボコボコに殴られましたもん。孤児ってね、もうボロカス。ましてや浮浪児だから、こっちは。浮浪児だから、死のうが生きようがそんなことお構いなしでしょう』

そこまで語って、鈴木さんは涙を流した。

『なんで、あの東京空襲が終わった時に、なんで戦争を止めなかったの。そうすれば広島も長崎もあんなことにならなかったのよ。私たち孤児は本当にね、ゴミみたいに扱われたの。昭和のあの頃に、こんなことがあったってわかってもらいたいです、私は。昭和の…、ただの昭和の出来事じゃない。私だけじゃないですよ。いっぱいいるわけですよ、孤児が。そのことをわかってもらいたい』

取材が終わった後、鈴木さんと共に上野駅の地下道へ向かい、その前でカメラを構えた。鈴木さんにしてみれば辛い記憶のよみがえる場所だったが、その場所で彼女にとっての太平洋戦争とは何だったのかを訊きたかった。

しかし鈴木さんは地下道を見つめ、そして、あまり口を開けなかった。



## 戦争体験を何故残すのか

2023年の夏、戦後78年目が始まる。78年前の戦中の記憶を持ち、そして語り得る戦争体験者は80歳代後半から、90代、100歳を超えてしまう。僕らが彼ら彼女らの話を伺い、残し、伝えるにはあまりに時間が少なくなってしまった。未だ終息が見えないウクライナの地での戦争は、皮肉にも戦争体験の傾聴と継承の重要性を改めて思い知る機会となってしまった。

僕は戦争体験者の方々に話を伺う際、おしまいには必ず尋ねる。

「あなたにとっての太平洋戦争とは、果たしてなんだったのでしょうか」

漠然とした質問であるとは承知しているけれど、でも訊かずにいられない。

根室の製鉄所で機銃掃射に遭った方にも、釜石で艦砲射撃に遭った人にも、終戦の日の未明に空襲で家を失った人にも、唯一の地上戦、この世の地獄の全てを集めたと言われる沖縄戦の地で孤児になった人にも必ず訊いた。皆それぞれに違う戦争を生き抜いて、70余年が経って思うその人それぞれの戦争の結果だ。そして彼ら彼女らは一様に、「2度としたくないし、2度と体験して欲しくない」と答える。

その眼差しや声色、表情、答えるまでの間を、僕には語り継げない。だからこそ、映像に残し、戦争が行われている現在を生きる僕らは継承しなければならないと考えている。

今回この特集では、世田谷区内にお住まいの戦争体験者の証言を敢えて取り上げた。この文章を読まれているどなたかの町内にも、きっと戦争体験者がおられるはずだからだ。そうだとしたら、今、その方々を訪ねて戦争体験を聞いて欲しい。あるいは、ご自身が戦争体験者であるならば語って欲しい。

それこそが、戦後を戦後としてしっかりと認知し、生きていく人びとの導きになると信じて疑わないからだ。 (桜丘・経堂9条の会代表 ドキュメンタリー番組ディレクター)



### 3/12 区民集会&パレード

世田谷・九条の会発足当初から関わって来られた会澤宏子さま（90歳）が書かれた手記を、斎藤節さまにご提供いただきました。次ページ以降に、ほぼそのまま掲載して紹介します。

会澤宏子さまより、九条の会発足の会に出席された写真とその時の様子、皆様の発言の内容をメモされた書類を先日送っていただきました。二年前施設へ入所されてから、いろいろ教え子たちへ発信されたり、勉強されていらっしゃる。「九条短信」も永年三人の方と発行、発信されておられました。

“今こそ九条”

貴重な資料ですのでコピーさせていただきました。ご活用いただければと思います。

齊藤 節（深沢）

# 九条の会発足の頃

会澤 宏子

私がこのホームに転居して、7月で2年になる。一週間ほど前に何気なく古い小箱を開けてみた。先づ、4年間程続いた「九条短信」のファイル、一寸とした重さ。中を見ると、大体1ヶ月の新聞から下に掲げたような先生、その他若い方々の発言も良く選び書いてあった。その下に白い封筒が。忘れていたが、「九条の会発足会のポスター（下の写真）」があった。このポスターは古い家の玄関の棚の上にずーっと貼ってあった。（なつかしい！）それと、当日の発言者のホンの一言メモ（正確さが心配だが、何とか書いたメモを記してみた）。当時を知らない友に送ろうと思って。それこそがまさに老婆心。これを書いて今、つくづく“老ひ”を実感している。20年前のメモはそれなりにきれい。この頃字の下手さを痛感していたがーまさに老人の字を自覚した。その上眼が非常に悪く、“ハズキ”ではダメ。間違いなど見苦しいのに厚顔で送ることにしました。

「九条短信」は、この会の発足に出席したことから、「短信」の記念日なのです。満席の会場から出たら、偶然、古賀さんとその友人、「お茶でも」と、やっと、小さな店へ。「聴くだけではダメだから私たちも何かしましょう」と、即、翌月から活動を始めました。

小森陽一さんが司会者だったとは、ずっと後、何かの会でわかったこと。当日はみな「今日の司会者誰？ 上手だったわね。素敵な方だったわね。どこかの大学の講師かしら？」とかもっばらでした。今なら、なるほど適任だったとわかります。

## 憲法九条 今こそ旬 九条の会発足記念講演会

於 ホテルオークラ地下室

2004年7月24日

司会 小森 陽一 氏

発言者 八名（梅原 猛氏は欠席）



井上ひさし氏

吉野作造氏について－母校仙台第一高校－

民本主義 ー憲法は政府に国民が発する命令ー、法律は政府が国民が発する命令。それをきっちりと見ているのが最高裁判所である。

大江健三郎氏

憲法・教育基本法を若い人々が「希求」としてとらえ直すことが重要である。

奥平康弘氏

憲法を守るだけでなく、九条の価値を世界にアピールすることが重要。

小田実氏

憲法は一国の憲法の形をした世界平和宣言、これがもう一度輝く時が来た、その根本が憲法である。

三木睦子氏

「なんであなたは自民党なんかにいるの」

三木武夫 氏

「ぼくがよそに行ったら憲法九条は守られないんだ」。

加藤周一氏

憲法を廃止した場合、

- ・日米軍事同盟雄の強化
- ・徴兵制の強化
- ・軍部の政治力の強化

澤地久枝氏（心臓手術を五日後に控えている）

- ・戦争によってものごとを解決する手段を捨てた国である。
- ・中心になるべきは九条であるべきです。一步も退かない。

鶴見俊輔氏

「人を殺すのはいけない」と一言で云える人間になりたい。



## 【コラム】 岸田文雄内閣の「憲法クーデター」

岸田文雄内閣は、2022年12月16日に、「安全保障三文書」（「国家安全保障戦略」・「国家防衛戦略」・「防衛力整備計画」）を閣議決定し、日本国の「侵略戦争宣言」を発した。その理由は、「国家安全保障戦略」において、日本国が「敵基地攻撃能力（反撃能力と言い換えて一引用者）を保有する」と明言しているからである。

「敵基地攻撃能力」について、「国家安全保障戦略」は、「この反撃能力とは、我が国に対する武力攻撃が発生し、その手段として弾道ミサイル等による攻撃が行われた場合、武力の行使の三要件に基づき、そのような攻撃を防ぐのにやむを得ない必要最小限度の自衛の措置として、相手の領域において、我が国が有効な反撃を加えることを可能とする、スタンド・オフ防衛能力（敵の射程圏外となる離れた場所から攻撃する能力のこと一引用者）等を活用した自衛隊の能力をいう」と述べている。

「敵基地攻撃能力」は、相手の攻撃着手で反撃に入ることができるので、自国への攻撃が届かなくても、反撃に入ることができるし、相手の攻撃着手の判断は、自国の裁量なので、虚構で反撃に入ることができるため、先制侵略攻撃が可能となる。勿論、対処後手攻撃も可能となる。

なお、「敵基地攻撃能力」は、「反撃能力」と言い換えられたことを勘案すれば、相手の基地だけでなく、自国の必要とするすべてのところへの先制侵略攻撃能力という意味になる。

「敵基地攻撃能力」を保有するとの宣言が行われたことにより、これまでの歴代の内閣が合憲と言い張ってきた（元来が日本国憲法「第九条」違反の）「専守防衛」（相手から武力攻撃を受けたとき、始めて防衛力を行使して必要最小限度の反撃を行うという姿勢のこと）から、「攻撃防衛」への戦略転換が行われ、日本国は「平和国家」から「侵略国家」への国家転換を行った。

「平和国家」から「侵略国家」への転換は、歪めない解釈から導き出される、如何なる戦争の道具（戦力）も持たず、如何なる戦争と武力による威嚇及び武力の行使もせず、すべての紛争を「対話」で解決するという「非戦・非武装・対話・永久平和主義」の実践を理念とする日本国憲法「第九条」の破壊となる。

日本国憲法「第九六条」の改憲手続きを用いなくて、つまり、主権者国民の承認なしで、「侵略国家」を作ったことは、「憲法クーデター」である。

岸田内閣は、「憲法クーデター内閣として、日本国憲法も主権者国民も国会も無視する独裁政治を行っていく。私達の最善の課題は、独裁政治と闘う個人・団体・政党による反独裁・平和・民主・福祉統一戦線の創設となる。

金子 勝（立正大学名誉教授）

## 追悼

この3月、平和運動にゆかりの深い三人の方の訃報に接しました。九条の会呼びかけ人のお一人だった作家の大江健三郎さん、舞台・テレビで活躍された女優の奈良岡朋子さん、そして、音楽家として私たちにも馴染みの曲を多く発表してこられた坂本龍一さんです。世田谷の九条の会との直接の接点こそありませんでしたが、区内からもお三方の逝去を悼む声が多く上がっています。このニュースでは、区内にお住まい、またお勤めの方に追悼のこぼをお寄せいただきました。心よりご冥福をお祈りします。



### 大江健三郎さんへ（2023.3.3 没）

橋本 玲子

私たちの会は、小森陽一先生を講師に40年続けています。大江健三郎さんの訃報を受けて、5月17日の例会は、「大江健三郎文学と平和への希求」の演題で公開講座として開催しました。

「9条の会」は2003年加藤周一さんの構想で始まり、小森先生は事務局長の任に当たってきました。文化人9名の呼びかけ人は全国講演を展開していく事を柱に、20年経過し大きな運動になっています。大江健三郎さんは呼びかけ人を快諾され、政治を文学の言葉で発信してきました。日本国憲法9条1項の・・・日本国民は正義と秩序を基調をとする国際平和を誠実に希求し...という言葉の意味を、憲法と教育基本法を変える動きの中で深く受け止めた講演を展開されていました。

今、憲法を変え戦争できる国にしようとする新たな局面を迎えています。発足当時の大江さんら呼びかけ人の言葉を平和への遺言として、それぞれの地域でそれぞれの言葉と自発的意思で運動をしていく基盤が出来ています。改めて加藤周一さんの言葉「戦争への準備ではなく平和への準備を！」を考え、難解と言われる大江文学を学んで行こうと誓っています。

（世田谷新婦人：近代文学を読む会）

### 奈良岡朋子さんへ（2023.3.23 没）

矢野 泰子

新劇を代表する民芸の大女優、奈良岡朋子さんが93歳で旅立たれた。「黒い雨」の朗読が最

後の舞台になった。奈良岡さんは、戦争中女学生の時、空襲に遭い、焼け跡の町で目にした光景が今も忘れられないと話していたそうです。電線に子どもの体がぶら下がっていて、鳥や動物も引っ掛かっていたそうです。新劇俳優として生きた根底にはこの戦争体験があり、「黒い雨」の朗読へと繋がっていったのですね。

90歳を過ぎてもリンとした声は衰えず、素晴らしい口跡で奈良岡さん特有の世界観が舞台にはありました。90歳過ぎて今欲しいのはエネルギーだと答えていました。元には戻れないし、若いときのエネルギーはないけれど、老いの身にエネルギーが欲しいと、分ります。90歳近い私も切にそう思いますからー。

73年の舞台役者として貫いたもの、それは核も戦争もない平和な世界にという強い思いでした。

奈良岡さん、お疲れ様でした。ご冥福をお祈りします。

(劇団東演団友)

## 坂本龍一さんへ (2023.3.28 没)

### 湯川 れい子

坂本龍一さんご本人が、「音楽だけやっているとと言われるけれど、黙っているのは無理だ」と仰っていたように、音楽家も画家も彫刻家も、感性で生きる人は敏感な時代のカナリヤです。自分を取り巻く環境に命の危険を感じたら、誰よりも真っ先に声に出さずには居られないからです。マイケルやスティング。ピカソや岡本太郎、チャーリー・チャップリン達がそうであったように〜。

坂本さんは 2006 年に青森六ヶ所村の核再処理施設に反対を表明。翌年は日本で最も危険な新潟の柏崎刈羽原発の稼働に絶対反対を唱え、2015 年の安倍政権では、集団的自衛権や改憲。特に憲法九条の危機に際して、すでに体調不安を抱えながらも、デモに参加して下さっていました。

特に私と違って坂本さんが凄いのは、世界的に評価される芸術家のお立場で、自らチャリティ・コンサートで汗を流し、そのお金で関連事業の団体を支援。尊い人生の最後の最期まで、人々の安全と幸せの為に、声を挙げ続けて下さったことです。その遺志を無駄にははいけないと、私も一羽のカナリヤとして固く心に誓う昨今です。坂本さん、ありがとうございます。本当に、お疲れさまでした。

(音楽評論・作詞)

## 初夏の俳句教室（6）

山形三郎

ありきたりの句にしない為に：「俳句」らしくする。「俳句」らしい「詩」にする。

例：「麦秋の黄色の中を利根流る」・・・それがどうした？変化を捉えていない！

#二つの題材の組合せで、驚きが生まれる。（二つの題材からひとつの句が生まれる）

関係の無い二つの題材の組合せ。

例句「木がらしや目刺にのこる海の色」（龍之介）

#つかず離れずの二つの題材を選ぶ。

例句「ハモニカが欲しかった日のいわし雲」（とし子）



組合せ ①遠近・大小の効果 ②日常のさりげなさ

①の例句 「閉園まで象を見た日のアキアカネ」（泰司）

②の例句 「春はあけぼのの白いごはんが炊けている」（享子）

注意深く見ると一つの題材でも句が出来る（一物仕立て）：

例句 「かたまって薄き光の菫かな」（水巴）

「せんたくものへびかびか光りおりてくる」（ともえ）

心に響く「間」の作り方：言葉の切れ目が「俳句らしさ」や余韻・余情（歌ころ）を生む。

例句 「夏草や/兵（つわもの）どもが夢の跡」（芭蕉）

/の切れ目で、現実（夏草）と想像（兵どもが夢）が「切れ字」の「や」にて効果的に連結している。「切れ」を作るとそこで気持ちや情景が省略され、「句」の中に「間」を作ることが出来る。句を鑑賞する人は、その「間」について想像力を膨らませることで、省略部分を埋めようとする。「つなぎ」が出来て来るのである。

切れ方の3つのパターン： ①切れ字の前後 ②名詞の前後 ③述語の前後 で切れる。

切れ字：「や」「かな」「けり」（他の言葉と結びつくことで、その言葉に余韻を持たせる。

若草や/日暮れかな/啼きにけり

初夏の例句

「初夏に開く郵便切手ほどの窓」（朗人）

「たまさかは夜の街見たし夏はじめ」（木歩）

「袖かろし夏めく水仕はげまされ」（貞）

## 【おたより】

- \* 少額の募金ですが、よろしくお願ひします。いつもありがとうございます。(宮坂 O さん)
- \* 大軍拮絶対反对 (等々力 N さん)
- \* 憲法 9 条はなんとしても、守っていかねければなりません。少しでも役立て戴ければと思ひ振り込みます。よろしくおねがひします。(奥沢 T さん)
- \* 切手代にもならないわずかで、会報を読ませて頂き、感謝しています。今夏転出を予定しておりますので、一口お礼を。(船橋 K さん)

## 【編集後記】

- 広島 G7 サミットが終了しました。被災者の声に応え、核廃絶、停戦・不戦への確かな一歩を踏み出すことは出来ませんでした。78 年前のちょうど今頃、日本各地は激しい空襲にさらされていました。世田谷でも 11 回の空襲にさらされ、死者 111 名・行方不明 2 名・重傷 160 名・軽傷 546 名・家屋全焼 11,409 戸・半焼 198 戸・全潰 14 戸・半潰 59 戸・罹災世帯 12,235・罹災者 46,235 名と報じられています(区立郷土資料館発行「資料館だより No.67」(2017)。もう二度と同じ思ひをしない、させたくない、当時の被災者の思ひが不戦を誓った憲法に凝縮されているのだと思ひます。今号のニュースでは、事務局に加わっていただいている桜丘・経堂九条の会代表の宮本さんに特集記事を作成いただきました。
- これまで使用していた事務局のメールが不調となり、やむを得ず電話会社とプロバイダーを、4 月末時点で変更いたしました。以前の電話・メールは通じませんのでご了承ください。新しい電話番号、メールアドレス、ホームページの URL はこのニュースの表題欄に記載されています。そちらをご登録ください。なお事務局のファックスは暫く使用できませんので、おそれ入りますが、メール添付でお送り下さい。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願ひします。
- 寄金の振込用紙を同封いたしました。原則年に 2 回お入れします。ご都合の良いときに、お送り下さい。なお、世田谷・九条の会は、会費制をとっていませんが、紙代、郵送料金の値上げで厳しい運営が続いています。物価高騰、実質賃金や年金の目減り、医療費負担の引き上げなど皆さまの生活が厳しくなっていることは重々承知しております。可能な限りで結構ですのでご支援いただけることを願っています。
- ニュースの発行は 2 月、5 月、8 月、11 月の月末と年 4 回を予定しています。事務局に加わっていただければこの上なくありがたいですが、印刷・発送作業の手伝い程度ならできる、という方がいらしたら大歓迎です。ぜひご連絡下さい。よろしくお願ひします。